



南の光明

The Catholic Diocese of Naha Newsletter

今年の教区の目標

いのちの輝きは
聖性の光
救いの泉

〒902-0067 那覇市安里3-7-2
カトリック那覇教区本部
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
発行人 W.F.バートン司教 1部40円
<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2024年10月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第791号 (10月号)

10月はロザリオの月です



のとして、またキリスト信者の生き方の模範として、さらには父なる神に取次いでくれる助け手として理解され、敬愛されてきました。

また、教会の歴史の中で「神の母聖マリア(二月一日)」「聖母の被昇天(八月十五日)」「無原罪の聖マリア(十二月八日)」などマリアに関する祝日が次第に導入されるようになったその背景には、使徒伝承の教

私たちはよく祈りの中で聖母マリアへ取り次ぎを願いますが、キリストの救いのわざに協力した第一人者・聖母マリアへの崇敬は、初代教会からすでに始まっています。

マリアは人間でありながらも、神の特別な恵みを受けて救い主・キリストの母となるために選ばれました。それゆえマリアは、神に対する心からの従順によって、神に結ばれた人のあるべき姿を示すも

マリアに対する祈りの中でも、幾世紀にもわたって大切にされてきた信心業として、ロザリオがあります。この祈りに対して歴代の教皇はたびたび言及し、奨励しています。ピオ十一世教皇は「われわれが神の御母に向かつて唱えるいろいろな、そして有益な祈りのうちで、聖なるロザリオは特別な、きわめて主要な地位を占めていることを知らない信者はない」(回勅『イングラヴェシエン

会のマリア理解の深まりと同時に、それを認めない考え方もあったからなのでしょう。

こうした中、近世になるとルルド(ルルドの聖母の記念日、二月十一日)やファティマ(ファティマの聖母の記念日、五月十三日)をはじめ各地に聖母の出現が伝えられ、巡礼や信心業がさらに盛んに行われるようになり、マリアを通して救い主イエスを黙想する慣習は、広く深く定着しました。

れることが可能なのだと。

ロザリオは本来、平和のための祈りです。なぜなら、ロザリオとはキリストの観想にほかなりませんが、そのキリストは、平和の君、「私たちの平和(エフエソ・二・14)だからです。キリストと一致する人はみな、平和の秘密を学び、平和を生涯の目標とします。さらに、静かに「聖母マリアへの祈り」を続けて唱えるという、その観想的な性格によって、ロザリ

タイプス・マールリス」と指摘しています。

また、二〇〇二年十月十六日に教皇ヨハネ・パウロ二世は、使徒的書簡「おとめマリアのロザリオ」を発表され、それまでの「喜び、苦しみ、栄えの神秘」に「光の神秘」を加え、この祈りを通してより豊かにイエスの生涯の秘義に触れるよう促し、ロザリオの本質と現代における重要性を解き明かしました。

聖ヨハネ・パウロ二世教皇は、この書簡の中で度々(序文と結び)ロザリオが平和のための祈りであることを強調し、次のように教えています。

この新しい千年紀の初めに世界が直面している困難な状況の中で、わたしたちはこう思わざるをえませぬ。いと高きかたが介入してくださることのみが、紛争の状況の中に生きる人々、そして諸国家の運命を支配する人々の心を導くことができ、明るい見通しへの希望を抱かせてくれることが可能なのだと。

戦争が拡大し、犠牲者が増え続けている今、また互いに敵対し、軍拡競争が激しさを増す今こそ、教皇フランシスコの呼びかけに応じて、日々ロザリオの祈りによって平和を希求しましょう。「私たちの平和」人類の平和そのものであるキリストを運ぶ者となりましょう。

いと高き方の愛の力が世界を覆いつくし、全ての人に「主の平和」が実現しますように。アーメン。

才は祈る人の心を平和にします。そこから、ロザリオを祈る人は、復活した主が与えた特別なたまものである真の平和(ヨハネ十四・27、二十・21参照)を心の奥底で受け入れ、経験し、まわりの人々にそれを広げることができるようになるのです。

ロザリオはまた、愛徳を果実としてもたらすことから、平和のための祈りです。ロザリオを真の黙想の祈りとしてよく祈るなら、ロザリオはわたしたちをキリストの諸秘義との出会へと導き、他の兄弟・姉妹、特に大きな苦みのうちにある兄弟・姉妹のうちに示されたキリストのみ顔に気付かずにはいられなくします。

——中略——

Feast of St. Lorenzo Ruiz at Yomitan Catholic Church



Procession of the Statue of St. Lorenzo Ruiz



Holy Mass



6 Confirmands and 3 First Communicants

Songs and Dance Presentation



2024年9月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時: 2024年9月3日(火) 10:00~12:00 於・ミッションビーチ

司会はマイケル神父が担当。ウェイン司教が初めの祈りを行って開式された。

1. 報告及び連絡事項

- ・前回(7月会議)の報告を新田が行い、承認された。
- ・出張、休暇、研修等の不在予定の報告が行われた。
 - ーブイ神父、8/19~10/3、休暇でベトナムへ。
 - ー古川神父、9/24~10/6、休暇。
 - ーナビーン神父、9/24~10/24、休暇でインドへ。
 - ーボスコ神父、9/9~9/11、典礼担当者全国会議のため、札幌へ。
 - ーウェイン司教、9/5~9/6、特別臨時司教総会のため、潮見へ。
- ・CINAP 韓国青年グループの平和学習について、担当のブイ神父が休暇中のため、マーシーさんから報告が行われた。10/16~20に韓国で開催予定の青年の集いには、那覇教区からも6人程度派遣を予定していることが報告された。
- ・長崎大司教区が行っている中高生たちの沖縄平和学習について、初回から関わっている新田が、その経緯と今回の平和学習の報告を行った。また、長崎からも長崎原爆の日の平和式典に沖縄から青少年が参加し、平和交流を促す声も寄せられていること等が報告された。
- ・8月25日(日)にカリタス・ジャパン担当司教の成井司教(新潟教区)をお迎えして行われた「Together Weキャンペーンの集い」について、マーシーさんから報告が行われた。安里教会を会場に、午後2時から講話、午後3時から「ともに歩む」をテーマに成井司教主式でミサが捧げられ、150名余の信徒が集い、良い集いとなったことが報告された。
- ・ブイ神父が休暇中のため、ウェイン司教からサマーキャンプの総括が行われた。青年たちを前面に立たせてリードさせ、自らは担当司祭として裏方に徹したブイ神父の成長を称え、感謝が述べられた。特に新たな試みに取り組みつつも安全面に配慮し、無事に子供たちの信仰体験の場を提供できたのは、多くの方々の支えと協力によるものと謝意が表された。休暇で気が焦ったのか、早々に提出された収支報告書には誤記載が見受けられるが、次年度に20万円近い金額を繰り越したことに感謝が述べられた。また、司教に促されて、各主任司祭たちからも労いと感謝、次年度に向けて司祭団の更なる協力体制の強化などの意見が述べられた。
- ・沖縄宗教者の会が毎年8月15日に行っている「祈りと平和の集い」について、担当のクレバー神父から報告が行われた。コロナ禍のため3年間は参加人数を制限して行われたが、今年度からはオープン参加で毎年8月15日午前10時から、摩文仁の平和祈念堂で行われる。今回は聖公会の若者が平和アピールを行ったこと等が報告された。
- ・9月29日の「世界難民移住移動者の日」について、担当のサニー神父から要請が行われた。当日は特別献金の日になっているので、各小教区で特別献金を集めて送るよう要請された。
- ・その他、10/26にコザ教会で開催されるGFCの集いについてサニー神父から報告がなされた。
- ・司教から、出張や研修への参加等については、前もって司教と調整するよう注意が行われた。
- ・9月29日 読谷教会で聖ロレンゾ・ルイス祭の開催、10月6日の小祿教会バザーへの案内もなされた。



2. 審議事項

- ・11月の司祭会議について、宮古島平良教会を会場に行う予定であるので、準備状況について、主任のヨアキム神父から報告が行われた。
- ・2025年の聖年について、ヨアキム神父、ボスコ神父、マキシム神父に担当をお願いするので、様々な取り組みの準備を進めるよう改めて要請が行われた。
- ・那覇教区に於ける叙階記念祝などについては、司祭叙階25周年や50周年に信徒の金婚祝と合わせて教区の日執り行うことがこれまでの慣例であり、今後もそのように実施することが確認された。それ以外の記念日等は、個人的に、または所属共同体内で行うよう提言され承認された。
- ・小教区における支出決済の取り扱いについて、ウェイン司教から注意が促された。それぞれの小教区は年間予算を定め、司教の承認を経て運営されているので、緊急な事柄であっても、予算額を10万円以上超える支出については、見積りを提示し、教区と十分に調整したうえで、司教の承認を得てから実行するよう厳しく要請された。
- ・ミサにおける答唱詩編の歌い方について、典礼担当のボスコ神父から複数の案が提示され、意見集約が行われた。

※会議の後昼の祈りを唱え、その後はビーチに降りて、BBQに舌鼓を打って散会となった。

※次回司祭助祭拡大会議は10月1日(火)午前10時から、教区センターで行われる。



ロザリオを通して 聖母を崇める

ロドニー・モンディッド神父
石垣教会 主任司祭



この美しい十月には、私たちの尊厳、マリアの役割、そして神が私たちの不完全さを利用して、神の偉大な計画を明らかにする方法を美しく説明する感動的な物語をお話したいと思えます。

ひびの入った鉢

昔、二つの壺を持つ水運び人がいました。一つの壺は完璧でしたが、もう一つはひびが入っています。水運び人は毎日、川で両方の壺に水を汲み、家に持ち帰りました。完璧な壺は満杯の水を汲めることを誇りに思っ

ていましたが、ひびの入った壺は欠陥を恥じていました。旅のたびに、半分の水しか汲めず、期待はずれだと考えるようになりました。ある日、深い悲しみに暮れたひびの入った壺は水運び人に話しかけました。「私の不完全さを申し訳なく思います。私はあなたの役に立たない壺です、役に立ちません。」水運び人

は優しく微笑んで答えました。「道沿いの美しい花に気づきましたか。」ひびの入った壺は混乱しながら、「どういう意味ですか?」と言いました。水運び人は続けました。「私は道沿いに種を植えました。そして毎日、川から歩いて帰るとき、あなたのひびが種に水をやりませう。あなたのおかげで、花が咲き、通り過ぎる人全員に喜びをもたらしています。」

その瞬間、ひびの入った壺は、自分の欠点が重荷ではなく、特別な贈り物であることに気づきました。自分の欠点が周囲の美しさに貢献し、神の創造において重要な役割を果たしていることを理解しました。

この物語は、私たちの尊厳が私たちの欠点によって損なわれるのではなく、むしろ、私たちの苦闘を通して神がその偉大な計画を明らかにすることが多いことを強く思い出させてくれます。神の子としての尊厳について考えるとき、私たちは恵みと受容を体現する聖母マリアに目を向けます。マリアは生涯を通じて困難や不確実性に直面しましたが、信仰を堅持しました。

受胎告知のときに彼女が神に「はい」と答えたことは、深い信

頼の行為であり、恐れや疑いがあるにもかかわらず、神の召命を受け入れることが私たちの尊厳の核心であることを示しています。

今月ロザリオを祈るとき、私たちはマリアを私たちの生活に招き入れ、神の子としての私たちの本来の価値を認識するよう導いてもらおうです。マリアは、私たちの不完全さが私たちを定義するのではなく、むしろ、それは神の神聖な計画の一部であり、私たちが本来あるべき姿に形作られていると教えてくれます。彼女が不確実性と困難に直面したにもかかわらず、神の子を産むために選ばれたように、私たちも私たちの人生に対する神の計画を信頼するよう求められています。

神はしばしば私たちの欠点を利用してご自身の栄光を明らかにします。聖パウロが言ったように、神の強さは私たちの弱さの中で完成されます。私たちの苦悩は共感と思いやりの源となり、意味のある方法で他の人とつながることができません。私たちが自分の不完全さを受け入れるとき、私たちは神の変容をもたらす愛に心を開き、世界における神の恵みの道具となります。

ロザリオの祈りを唱えながら、マリアの生涯の神秘とそれが私たち自身の経験とどのように関係しているかを考えてみましょう。それぞれのアヴェ・マリアは、私たちに對する彼女の愛と、私たちが自分の道を進むときに揺るぎないサポートを思い出させてくれます。

私たちの旅の美しさを見るのを助けてくれるよう彼女にお願いし、神が私たちの欠点を通して、私たちが想像する以上の何かをもたらすために働いていることを理解しましょう。神の子としての尊厳を祝い、私たちの長所と短所の両方を受け入れましょう。割れた壺のように、私たちは神の創造において果たすべき独自の役割を持っていることを忘れず、私たちの課題を通して神の計画の美しさを明らかにすることができるようになります。

この十月を通して、神は私たちを、不完全さも含めて、ありのままに愛しているという知識に慰めを見いだしましょう。マリア様を導きとして、私たち一人ひとりが自分の尊厳を受け入れ、神の神聖な計画を信頼し、植えられた場所で花を咲かせる勇氣を持てますように。

中学校の現場では、生徒の「不登校」「学力不振」「学習意欲の低下」といった課題に日々向き合われます。子どもたちは、学習に対して諦めを感じていたり、周囲から孤立していたり、よく学習ができたとしても、冷やかしを恐れて「だんまり」を決め込んでいたりします。

そのような心境にある子どもたちも、思いがけず、生き生きと乗ってきた授業がありました。それは琉歌創作の時間でした。

八八八六のリズムで詠まれる琉歌には、和歌の影響を受けた知識人の教養として詠まれたものから、庶民が日常生活を歌ったものまで、多くの作品が残されています。「沖繩のことは」で歌をつくと、なんとんだか面白いというだけで盛り上がり、知ってるウチナーグチを並べて歌ったりして楽しむ授業にしてみました。

ところがある日、「屋嘉節」を鑑賞して、「沖繩の人々が終戦後の捕虜収容所で、深い悲しみと絶望の中にあっても、歌でお互いを励ました」と知ったクラスでは、みんなの琉歌観ががらっと変わりました。私としては、コミカルな歌をつくって楽しむだけでもよしとしていましたが、「屋嘉節」の学習のあとは、「いくさ うとうるさや くりけーし ならん あんさくとう いくさや わったー

が ちてーら（戦の恐ろしさは繰り返してはならない。だから僕たちが戦争のことを伝えていこう）」というような歌を詠む生徒も現れました。

ほかに、中学生たちの詠んだ琉歌は、家族や友達への感謝や、だれかを想う気持ち、平和を願う心、友達を励ますことば、亡くなったおばあちゃんへのメッセージなど、愛情のこもった作品ばかりでした。普段は、詩を創作したり、作文を書いたりする学習は、嫌々ながら取り組んだり、あるいは提

たて軸よこ軸 子どもが心を開くとき

小祿教会 名富綾乃（中学国語教員）

出しなかつたりという消極的な態度を見せるものですが、琉歌をつ

くことに關しては、とても前向きで、楽しそうに取り組んでいました。

生徒の詠んだ歌はお互いに読み合っ、コメントを寄せ合いました。作者が目の前について、感じたことを伝え合う、という活動は、尊敬し合う雰囲気生まれ、賞賛の言葉が行き交う時間をつくってくれました。学習の終わりの感想には、「素直な気持ちを表現でき

た」「共感できた」「心がつながった」という言葉が並びました。反抗期の真っ只中にある中学生が、「素直になれた」と口にする場面なんて、そうそうないので、私は心が震えました。

「どうして素直になれたのかな」と聞くと、「授業が平和だったから」と答えた子がいて、教室じゅうの生徒が大きくうなずきました。「〇・×で評価されない」「友達が優しいコメントをくれた」「話をしたことがなかった人からも褒められた」、それらが「教室に平

和をもたらした」と感じたようです。

いつもは学校や家庭で、とくに授業において「平和じゃない」状況に追い込まれがちな中学生が、なぜ、この学習で平和を感じたのかを考えました。琉歌の学習では、まず、「先祖様・歴史・ともだち・家族との「つながり」を感じた」と思います。また、創作に至るまでの、「実はグスクが好きだわけ」とか、「えー、こんなウチナーグチも知ってるの?」「明日おじい

のホームに行つてこようね」などという会話のなかで、お互いの暮らしや価値観などをもっと深く知つたようです。

それから、なによりも中学生を支えたものは、自分の作品に対する友達からのコメントでした。お友達が自分を認めて、共感してくれたことが、中学生を安心させ、良い部分をどんどん伸ばしていく様子を目の当たりにしました。「つながり」と「対話」と「分かち合い」。これらが揃ったおかげで、いつもは「辛い」授業時間が、安心で平和な時間に一変したのだなと思えました。

彼らが歌に詠みこんだ言葉には、自分の身近な人に対してだけでなく、「なにかしら偉大な存在」に対しての、感謝・畏怖・決意・祈りも込められていました。安心で平和を感じると、普段は照れて、あるいは反発して口にならない秘めた思いも、自然に言葉にできるのかもしれない。

私ができるべきことは、正義や道徳や信仰心を、「教科書を片手に教え込むこと」ではなさそうです。子どもたちがすでに持っている、尊い価値観や素敵な思いを、「誰かに話してもいいよ」と思ってもらえる、安心で平和な空間をつくること。まずはそれだな。そう教えてもらった気がします。



2025聖年

希望の巡礼者

JUBILEE 2025 Peregrinantes in Spem

シノドス第 16 回通常総会 第二会期の始まりにあたって

2021 年から現在に至るまで開催されているシノドス第 16 回通常総会の第二会期が、まもなくローマにて、10 月 2 日から 27 日までの日程で始まります。またこれに先立って、参加者全員は 9 月 30 日から 2 日間の黙想会に参加することになっています。

昨年の第一会期同様、日本からは司教協議会の代表としてわたしが、また教皇様からの任命で西村桃子さんが、さらに顧問としてシスター弘田しずえさんが参加いたします。

第二会期の土台となるのは、先日日本語訳が公開された「討議要綱」です。長い文章ですので、シノドス特別チームではその要約を作成しました。

さらに、第二会期に先立って、5 月には小教区で働く司祭のためのシノドスがローマで行われ、日本からは大阪高松教区の高山徹神父様が、アジアでの大陸別シノドスに続いて参加してくださいました（働く司祭のためのシノドス 報告書）。

また 8 月初めにはバンコクで、FABC（アジア司教協議会連盟）主催のアジアのシノドス参加者の会議が行われ、西村桃子さん、シスター弘田しずえさん、そして講師として高山徹神父様が参加されました（アジアのシノドス参加者の会議 報告書）。加えて 8 月末にはルクセンブルグで、シノドス事務局のグレック枢機卿やオロリッシュ枢機卿を迎えて、アジアとアフリカとラテンアメリカの、それぞれの司教協議会連盟の代表が集まり、いわゆるグローバルサウスの諸課題について分かち合う会議も行われ、わたしが FABC の事務局長の立場で参加いたしました（アジア、アフリカ、ラテンアメリカの司教協議会連盟によるシノドス関連会合 報告書）。第二会期に先立って、これらの集まりについて、それぞれの参加者に報告をお願いしましたので、ホームページで公開します。

さて今回の第二会期ですが、しばしば話題に上がる具体的な課題について参加者が意見を交わし、決定をする場ではありません。そのように理解されて、具体的な課題についてのご意見をわたし宛にご送付くださる方もおられますが、残念ながらそういった課題について意見を交換する場とはなりません。

ご存じのように、第一会期で指摘された様々な具体的な課題について、教皇様は 2 月 22 日付けの文書で 10 の研究部会を設置され、2025 年 6 月頃をめどに、結論を出すように求められています。これら 10 の研究部会が取り扱うのは、以下のテーマです。（なお「まとめ」とあるのは、第一会期の「まとめ」文書のことです）

東方諸教会とラテン教会の関係性の諸相（「まとめ」6 項）。

貧しい人の叫びに耳を傾ける（「まとめ」4, 16 項）。

デジタル環境における宣教（「まとめ」17 項）。

宣教するシノドスの観点からの、『司祭養成基本綱要』改訂（「まとめ」11 項）。

特定の奉仕職の形態に関する神学的・教会法的事象（「まとめ」8, 9 項）。

宣教するシノドスの観点からの、司教・奉献生活・教会諸団体の関係性に関する文書改訂（「まとめ」10 項）。

宣教するシノドスの観点からの、司教の人格と奉仕職の諸相（司教職候補者の選定基準、司教の法的機能、使徒座訪問[アドリミナ]の性質と経過）（「まとめ」12, 13 項）。

宣教するシノドスの観点からの、教皇の代理者の役割（「まとめ」13 項）。

議論の分かれる教義的、司牧的、倫理的諸課題について、共同識別するための神学的基準とシノドスの方法論（「まとめ」15 項）。

教会実践における、キリスト教一致の旅がもたらす果実の受容（「まとめ」7 項）。

例えば、しばしば話題に上がる女性の助祭職の可能性は、第 5 の研究部会が検討を続けており、これらの課題については、第二会期では話し合われることはありませんが、中間報告が期待されています。また研究部会の構成員は、基本的に公開されていません。

これに関してグレック枢機卿は、先日の会議の際に口頭で、「研究部会はこれらの課題の是非を話し合っているのではなく、教皇様がすでにこれらを課題だと認められたからこそその研究部会だ」と強調され、それらの課題の必要性や妥当性についての話し合いはすでに十分行われたと強調されています。なおこれらの研究部会の具体的検討内容については、2024 年 3 月 14 日付けで事務局文書が公開され、日本語訳も公開されています。

さて、まもなく始まる第二会期の一番の目的は、「宣教するシノドスの教会となるには」、いまわたしたち教会は何に取り組み、どのようにあることが必要なかを、参加者が共に祈り、黙想し、聖霊の導きを識別することにあります。

ローマの会場での祈りと識別がふさわしく行われるように、教会全体で思いを同じくして、祈りによって支え合うことが重要です。また、このたびのシノドスは、ローマでの会議で終わるものではなく、これから先の教会の歩むべき道の見極め、それに沿いながら皆で歩み続けるために行われています。すなわち、これで終了するのではなく、これからが本番です。

その意味で、司教協議会のシノドス特別チームが作成したハンドブックや、ホームページで邦訳を提供している様々な文書は、これから長年にわたっての教会のための道しるべとなります。いまからでも遅くありません。是非手に取って、共に歩みを始めましょう。

2024 年 9 月 6 日

日本カトリック司教協議会会長 菊地 功

「一般ローマ暦（改訂版）」について

本年1月に発表した口語版の「諸聖人の連願」では、聖人の名前に、将来の『ミサ典礼書』改訂版に掲載される「一般ローマ暦」で使用する新しい表記を採用しました。これを受けて、2025年度の待降節第1主日（2024年12月1日）から、ミサや「教会の祈り」などの典礼全般においても新しい固有名詞表記を使用していくこととなりましたので、「一般ローマ暦」の改訂版を公表します。今後の具体的な対応は以下のとおりです。

1. ミサや「教会の祈り」においては、従来の公式祈願の中に聖人の名前が用いられている場合、新しい表記に置き換えて唱えてください。『毎日のミサ』は12月号から、公式祈願中の固有名詞を新しい表記に置き換えて記載します。ただし、祝日用のアレルヤ唱（『典礼聖歌』276、277）と叙唱のタイトル部分に含まれる「聖母の被昇天」「無原罪の聖マリア」などは、引用元の『典礼聖歌』と『ミサの式次第（2022新版）』が新しい固有名詞表現に未対応のため、従来の名称のまま記載します。
2. 近年、「一般ローマ暦」に加わった聖人のミサで用いる公式祈願は「補遺」としてカトリック中央協議会ウェブサイトに掲載してきました。この「補遺」に用いられている聖人の名前も新しい表記に置き換えて掲載します。
3. 『教会の祈り』ならびに『毎日の読書』に記載されている聖人の名前を新しい表記に置き換えて発行できるか否かは今後検討します。
4. 『教会暦と聖書朗読』と『カトリック教会情報ハンドブック』は、今秋発行される2025年度版から、新しい表記を採用します。

2024年10月1日 日本カトリック典礼委員会

トゥランジトゥス

アシジの聖フランシスコを創立者にいただく修道会は、その祝日である10月4日を前に、伝統的に死から生への儀式である「トゥランジトゥス」を10月3日の晩に行っている。「トゥランジトゥス」とは「帰天祭」のことで、聖フランシスコの天国への凱旋を祝う。

今年も小祿教会に修道会の会員と信徒の方々も参列して、修道会が行う「トゥランジトゥス」を見守った。ウェイン司教（カプチン・フランシスコ修道会）と押川司教（コンベンツアル聖フランシスコ修道会）が主式して、師父聖フランシスコを讃え共に祈った。



教区 NEWS 教会

琉歌ミサ曲で 敬老の日を祝う

名護教会

九月十五日（日）は、敬老の日のお祝いとして、入祭の歌は、琉歌ミサ曲（愛楽園教会天久佐信氏作詞）の中の「みるく節」の調子にのせて歌い、閉祭の歌は「ハンジヨウ節」の調子で、みなどで声を合わせて歌いました。三線演奏は、宮城永有さん、歌の中心は奥様の美津子さんで、お二人とも九十一歳のご

夫婦です。

昨年引き続き、快く伴奏と歌を引き受けてくださり、お二人の元気をいただきながら、歌うことができました。ミサ後は、敬老を祝う茶話会を開き、和やかな交流の場となりました。

今年も琉歌によるミサを行うことができましたことをご指導くださったマイケル神父様と、演奏してくださいくださった宮城永有、美津子ご夫妻に感謝します。ありがとうございます。

（渡慶次純栄）



東京教区

タルシチオ菊地功大司教、枢機卿に親任



教皇フランシスコは、10月6日正午、バチカン・サンピエトロ広場に集まった巡礼者や訪問者に向けての「お告げの祈り」を祈る際、12月8日の枢機卿会議において、21人の枢機卿を親任することを発表しました。日本からは、菊地功大司教（東京教区）が選ばれ、日本人としては、2018年に選ばれた前田万葉枢機卿に次いで、7人目の枢機卿となります。

日本からは、菊地功大司教（東京教区）が選ばれ、日本人としては、2018年に選ばれた前田万葉枢機卿に次いで、7人目の枢機卿となります。

あらがき つぐとし 新垣 王敏 先生、帰天



日本のカトリック典礼音楽の第一人者として知られる作曲家の新垣王敏氏が2日、東京都内の病院で死去した。85歳だった。葬儀ミサ・告別式は、10日正午からカトリック立川教会で行われた。1938年、沖縄県出身の父の移住先であったフィリピンのパナイ島イロイロ市で生まれる。戦後、沖縄県に戻り、68年国立音楽大学卒業。お茶の水女子大学講師、白百合女子大学教授、東京カトリック神学院（現日本カトリック神学院）講師、東京純心女子大学（現東京純心大学）特任教授などを歴任した。カトリック教会外でも広く歌われている「マラナタ」のほか、「ごらんよ空の鳥」「キリストはぶどうの木」など、『典礼聖歌』『カトリック典礼聖歌集』に収録されているさまざまな聖歌を作曲した。

一日黙想会へのご案内

講師：マキシム神父（小祿教会）
日時：2024年10月12日（土）

10月

午前 午後
9:00~受付 1:00~分かち合い（小グループ）
9:30~司祭の講話 2:00~分かち合い（全体）
10:30~沈黙の時間（個人黙想） 3:00~ミサ
12:00~昼食 4:00~ゆるしの秘跡（終わり次第解散）

※持参するもの 聖書・弁当・飲み物・会費500円
聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会
電話：098-945-2354 098-945-8649

◆聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会
シスターユリアナ 平山 政子 様
2024年9月20日帰天 享年90歳

那覇教区子どもと女性の権利を擁護するデスク



相談窓口
☎098-863-2020
火・水・木
13:00~17:00

NPO 法人ぶどう園の会
訪問看護ステーションクララ
TEL&FAX:098-937-5001
住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15
・基本受付 月曜日~金曜日(申込、相談など)
・営業時間 8:30~17:30
・営業日 24時間365日(緊急対応含む)

葬祭の「やすらい企画」
24時間受付
私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。
那覇市首里烏堀町4-57-3
TEL&FAX:098-885-8205
http://w1.nirai.ne.jp/yasurai
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

~ご遺族の心をもって奉仕する~
そうてんしゃ
葬典社
*創業30数余年・・・。
*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。
「ゆうなの会」会員募集中です。
ひが たかしげ (実務担当) 比嘉 高茂
24時間受付
てんごく
☎098-853-1059